

相模原市における外来ハゴロモ類 2 種の記録

嶋本 習介*

* 相模原市立博物館

Distributional records of two non-native species of Fulgoromorpha (Hemiptera) from Sagamihara, Kanagawa, Japan

Shusuke Shimamoto*

*Sagamihara City Museum

近年、日本では外来のハゴロモ類が複数種報告されており、神奈川県では、ハゴロモ科 Ricaniidae のチュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis* (Chou & Lu, 1977) が 2022 年に横浜市で初めて発見され (七里・佐久間, 2022)、2024 年には相模原市 (中町, 2025)、2025 年には三浦半島 (川島, 2025) でそれぞれ確認されるなど、分布を拡大しているといえる。さらに、アオバハゴロモ科 Flatidae では、ヘリチャハゴロモ *Salurnis marginella* (Guérin-Méneville, 1829) が 2022 年に川崎市で初めて発見され (岸, 2023)、その後横浜市からも記録されており (七里ら, 2024)、こちらも分布拡大傾向にあると考えられる。なお、後者の種の和名については、表記の和名のほかに「キベリハゴロモ」も用いられているが (山内ら, 2024)、本稿では「ヘリチャハゴロモ」を用いる。

相模原市では、チュウゴクアミガサハゴロモが 2024 年に中央区から記録されているが (中町, 2025)、ヘリチャハゴロモは未報告である。本稿では、2024 年および 2025 年に観察した両種の市内での生息状況について報告する。

検視標本は相模原市立博物館昆虫コレクション (JSCM-NK) に保管されている。検視標本は全て相模原市で筆者が採集したものであるため、データのうち採集地名の「神奈川県相模原市 (Kanagawa-ken, Sagamihara-shi)」および採集者名 (S. Shimamoto) は省略した。また、データ中の角括弧内の 5 桁の数字は登録番号を示し、機関略称 (JSCM-NK) は省略した。

チュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

検視標本データ 3exs. (図 1), 中央区高根 相模原市立博物館 (Chuo-ku, Takane, Sagamihara City Museum), 13. VI. 2024 [83616–83618]; 5exs., 同地 (ditto), 21. VI. 2025 [83619–83623]; 17exs., 同地

(ditto), 16. X. 2025 [83624–83640]; 1ex., 緑区久保沢 (Midori-ku, Kubosawa), 30. IX. 2025 [83641]; 1ex., 緑区河尻 城山湖 (Midori-ku, Kawajiri, Lake Shiroyama), 8. X. 2025 [83642]; 2exs., 緑区小倉 (Midori-ku, Ogura), 22. X. 2025 [83643–83644]; 2exs., 南区鶴野森 (Minami-ku, Unomori), 28. VI. 2025 [83645–83646]; 1ex., 南区相模大野 (Minami-ku, Sagami-ono), 26. IX. 2025 [83647]; 4exs., 南区上鶴間本町 (Minami-ku, Kamitsuruma-honcho), 7. X. 2025 [83648–83651].



図 1–2. 相模原市産外来ハゴロモ 2 種。1. チュウゴクアミガサハゴロモ; 2. ヘリチャハゴロモ。縮尺は非統一。

2024 年に採集した個体は相模原市立博物館周辺における 3 個体のみであるが、同地ではそのほかにも多数の個体を観察した。2025 年も、同地では検視個体以外に多数の個体を観察し (図 3–5)、樹木等のスイ

ーピングでは、一度に 10 個体以上が採集されることもしばしばあった。さらに、2025 年には、検視標本データに示すとおり緑区の東部や南区の広い範囲で本種が採集されたほか、いずれの地域でも生体が多産していた。

以上の観察は日々の調査活動中に見かけた本種の断片的な記録に過ぎず、本種を対象とした網羅的な調査を実施したわけではないものの、本種は市内の特に相模原台地上ではごく普通に生息するハゴロモとなったといえる。ただし、2024 年以前には本種の調査を行っていないことと、2024 年には相模原市立博物館周辺以外で調査を行っていないことから、本種が市内にいつ侵入し、どのように拡散したのかは不明である。また、2025 年までに確認されていない緑区西部については調査が不足しており、本種の分布の有無を論じることができない。

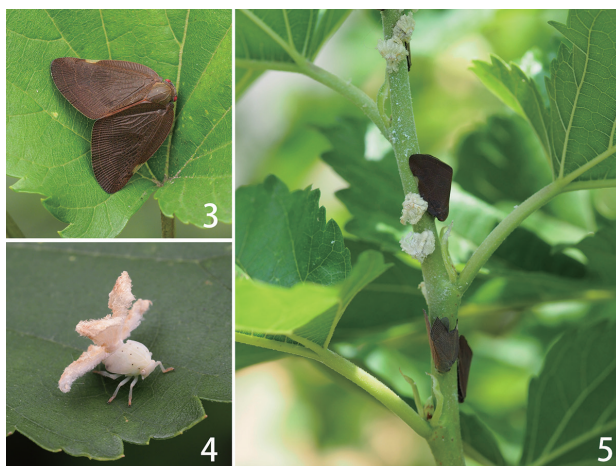


図 3-5. チュウゴクアミガサハゴロモ。3. 成虫；4. 幼虫；5. 成虫および幼虫の集団。

ヘリチャハゴロモ *Salurnis marginella* (Guérin-Méneville, 1829)

検視標本データ 1ex. (図 2), 中央区高根 相模原市立博物館 (Chuo-ku, Takane, Sagamihara City Museum), 06. VIII. 2025 [83652]; 1ex., 南区相模大野 (Minami-ku, Sagami-ono), 24. X. 2025 [83653].

2025 年に中央区の相模原市立博物館と、南区相模大野で 1 個体ずつ確認した。相模原市立博物館の個体は博物館の外壁にとまっていたところを発見し、南区相模大野の個体は落ちていた死骸を拾得した。

本種についても前種同様に網羅的な調査を実施したわけではないものの、1 頭目の発見以降は日々本種に

留意しつつ野外調査等を実施したにもかかわらず検視標本の 2 頭以外確認することができなかった。ことから、2025 年時点における市内での生息密度は低く、個体数も明らかに前種よりも少ないといえる。市内への侵入の初期段階である可能性も考えられる。

引用文献

- 川島逸郎, 2025. 横須賀市南部からのチュウゴクアミガサハゴロモの記録. 神奈川虫報, (217): 63-64.
- 岸一弘, 2023. 神奈川県における *Salurnis marginella* (カメムシ目, アオバハゴロモ科) の採集記録. 神奈川虫報, (209): 48.
- 中町華都雄, 2025. 神奈川県北部におけるチュウゴクアミガサハゴロモの記録. 月刊むし, (647): 56.
- 七里浩志・橋本悟史・佐久間聡, 2024. 横浜市における *Salurnis marginella* (カメムシ目, アオバハゴロモ科) の採集記録. 神奈川虫報, (212): 79-80.
- 七里浩志・佐久間聡, 2022. アミガサハゴロモに近似した外来ハゴロモを横浜市で採集. 神奈川虫報, (208): 93-95.
- 山内悠司・鈴木真裕・小林茂樹, 2024. キベリハゴロモ (カメムシ目アオバハゴロモ科) の大阪府からの初記録. 月刊むし, (635): 8-9.